

受 検 番 号	氏 名
.....	

令和 4 年度 (前期)

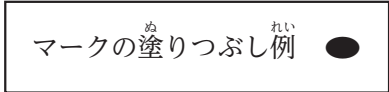
# 2 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題

令和 4 年 6 月 12 日 (日)

## [ 注 意 事 項 ]

1. ページ数は、表紙を入れて 17 ページです。
2. 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
3. 問題の解答の仕方は、次によってください。
  - イ. [No. 1]～[No. 14]までの 14 問題のうちから、9 問題を選択し、解答してください。
  - ロ. [No. 15]～[No. 17]までの 3 問題は、全問題を解答してください。
  - ハ. [No. 18]～[No. 28]までの 11 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
  - ニ. [No. 29]～[No. 38]までの 10 問題は、全問題を解答してください。
  - ホ. [No. 39]～[No. 42]までの 4 問題は、全問題を解答してください。
  - ヘ. [No. 43]～[No. 50]までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 問題番号 [No. 1]～[No. 38]、[No. 43]～[No. 50]は、四肢一択式です。  
正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
6. 問題番号 [No. 39]～[No. 42]は、施工管理法の能力問題で四肢二択式です。  
正解と思う肢の番号を 2 つ選んでください。  
なお、選んだ肢の番号が 2 つとも正しい場合のみ正答となります。
7. 解答の記入に当たっては、次によってください。
  - イ. 解答は、選んだ番号を右のマークの塗りつぶし例に従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。
  - ロ. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
11. この問題用紙は、第一次検定の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。  
途中退席する場合は、持ち帰りできません。





※ 問題番号 [No. 1] ~ [No. 14] までの14問題のうちから、9問題を選択し、解答してください。

[No. 1] 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 全般換気方式は、室内全体の空気を外気によって希釈しながら入れ替える換気のことである。
2. 局所換気方式は、局所的に発生する汚染物質を発生源近くで捕集して排出する換気のことである。
3. 第1種機械換気方式は、映画館や劇場等外気から遮断された大きな空間の換気に適している。
4. 第2種機械換気方式は、室内で発生した汚染物質が他室に漏れてはならない室の換気に適している。

[No. 2] 採光及び照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 輝度は、光源からある方向への光度を、その方向への光源の見かけの面積で除した値という。
2. 屋光率は、全天空照度に対する室内のある点の天空光による照度の割合である。
3. 光源の色温度が低いほど青みがかかった光に見え、高いほど赤みがかかった光に見える。
4. 照度の均斉度が高いほど、室内の照度分布は均一になる。

[No. 3] 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 吸音率は、壁面に入射した音のエネルギーに対する吸収された音のエネルギーの割合である。
2. 正対する反射性の高い壁面が一組だけ存在する室内では、フラッターエコーが発生しやすい。
3. 窓や壁体の音響透過損失が大きいほど、遮音性能は高い。
4. 材料が同じ単層壁の場合、壁の厚さが厚いほど、一般に音響透過損失は大きくなる。

[No. 4] 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 大梁は、曲げ破壊よりもせん断破壊を先行するように設計する。
2. 柱は、軸方向の圧縮力、曲げモーメント及びせん断力に耐えられるように設計する。
3. 床スラブの厚さは、8 cm 以上で設計する。
4. 耐力壁の厚さは、12 cm 以上で設計する。

[No. 5] 鉄骨構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 圧縮材は、細長比が小さいものほど座屈しやすい。
2. 軽量鉄骨構造に用いる軽量形鋼は、通常の形鋼に比べ、部材にねじれや局部座屈が生じやすい。
3. 鉄骨構造の柱は、鉄筋コンクリート構造の柱に比べ、小さな断面で大きな荷重に耐えることができる。
4. 大空間を必要とする建築物に用いる長大な梁は、軽量化を図るためにトラス梁とすることが多い。

[No. 6] 鉄骨構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. フィラープレートは、厚さの異なる板をボルト接合する際に、板厚の差による隙間を少なくするために設ける部材である。
2. 添え板（スプライスプレート）は、梁のウェブの座屈防止のために設ける補強材である。
3. 柱の形式には、形鋼等の単一材を用いた柱のほか、溶接組立箱形断面柱等の組立柱がある。
4. 合成梁に用いる頭付きスタッドは、鉄骨梁と鉄筋コンクリート床スラブが一体となるように設ける部材である。

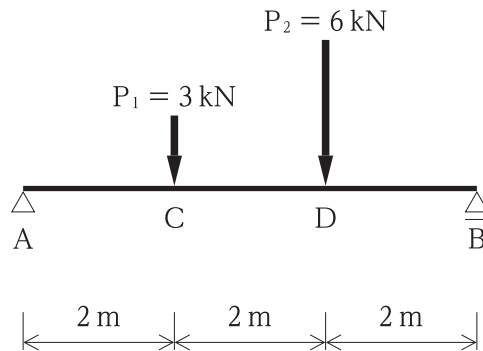
[No. 7] 基礎構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. べた基礎は、地盤が軟弱で、独立基礎の底面が著しく広くなる場合に用いられる。
2. 杭基礎は、一般に直接基礎で建築物自体の荷重を支えられない場合に用いられる。
3. 同一建築物に杭基礎と直接基礎等、異種の基礎を併用することは、なるべく避ける。
4. 直接基礎の底面は、冬季の地下凍結深度より浅くする。

[No. 8] 構造材料の力学的性質に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 部材の材軸方向に圧縮力が生じているとき、その力がある限界を超えると、その部材が安定を失って曲がる現象を座屈という。
2. ヤング係数は、熱による材料の単位長さ当たりの膨張長さの割合である。
3. ポアソン比とは、一方向の垂直応力によって材料に生じる縦ひずみと、これに対する横ひずみの比をいう。
4. 座屈荷重は、座屈軸まわりの断面二次モーメントに比例する。

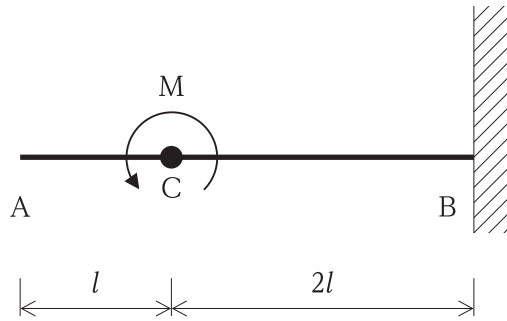
[No. 9] 図に示す単純梁 AB に集中荷重  $P_1$  及び  $P_2$  が作用するとき、CD 間に作用するせん断力の値の大きさとして、正しいものはどれか。



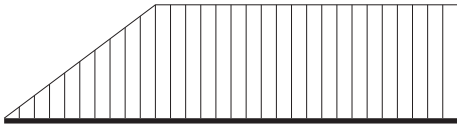
1. 1 kN
2. 3 kN
3. 4 kN
4. 5 kN

[No. 10] 図に示す片持ち梁 AB の点 C に曲げモーメント M が作用する場合の曲げモーメント図として、正しいものはどれか。

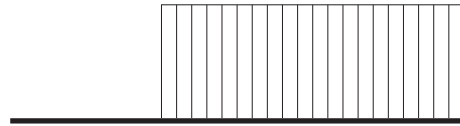
ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



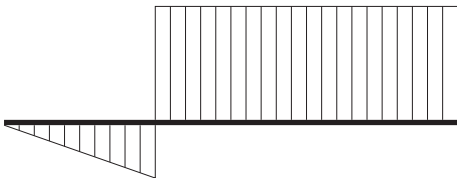
1.



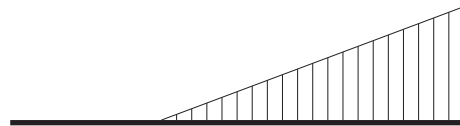
2.



3.



4.



[No. 11] 鋼の一般的な性質に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 弾性限度内であれば、引張荷重を取り除くと元の状態に戻る。
2. 炭素含有量が多くなると、溶接性は向上する。
3. 熱処理によって、強度等の機械的性質を変化させることができる。
4. 空気中で酸化し、錆を生じるため、防食を施す必要がある。

[No. 12] 日本産業規格 (JIS) に規定する建具の性能試験における性能項目に関する記述として、不適当なものはどれか。

1. 防火性とは、火災時の延焼防止の程度をいう。
2. 面内変形追従性とは、地震によって生じる面内変形に追従し得る程度をいう。
3. 水密性とは、風雨による建具室内側への水の浸入を防ぐ程度をいう。
4. 遮熱性とは、熱の移動を抑える程度をいう。

[No. 13] シーリング材の特徴に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ポリウレタン系シーリング材は、紫外線によって黄変することがある。
2. ポリサルファイド系シーリング材は、表面に塗った塗料を変色させることがある。
3. シリコン系シーリング材は、表面への塗料の付着性がよい。
4. アクリル系シーリング材は、未硬化の状態では水に弱く、雨に流されやすい。

[No. 14] 内装材料に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. インシュレーションボードは、断熱性に優れている。
2. ロックウール化粧吸音板は、吸音性、耐水性に優れている。
3. フレキシブル板は、セメント、無機質繊維を主原料とし、成形後に高圧プレスをかかけたものである。
4. せっこうボードは、せっこうを心材として両面をボード用原紙で被覆して成形したものである。

※ 問題番号 [No. 15] ~ [No. 17] までの3問題は、全問題を解答してください。

[No. 15] 屋外排水工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 地中埋設排水管の勾配は、原則として、 $\frac{1}{100}$ 以上とする。
2. 硬質ポリ塩化ビニル管をコンクリート柵に接合する部分は、砂付きの柵取付け短管を用いる。
3. 遠心力鉄筋コンクリート管のソケット管は、受口を下流に向けて敷設する。
4. 雨水柵に接合する配管は、流入配管を上にして流出配管とは20 mm程度の管底差をつける。

[No. 16] 建築物に設ける自動火災報知設備の感知器として、最も関係の少ないものはどれか。

1. 熱感知器
2. 煙感知器
3. 炎感知器
4. 地震感知器

[No. 17] 空気調和設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. パッケージユニット方式は、機械室、配管、ダクト等のスペースが少なくすむ。
2. ファンコイルユニット方式は、ユニットごとの温度調節はできない。
3. 二重ダクト方式は、別々の部屋で同時に冷房と暖房を行うことができる。
4. 単一ダクト方式は、主機械室の空気調和機から各室まで、一系統のダクトで冷風又は温風を送るものである。



※ 問題番号 [No. 18] ~ [No. 28] までの11問題のうちから、8問題を選択し、解答してください。

[No. 18] 墨出し等に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 陸墨を柱主筋に移す作業は、台直し等を終え、柱主筋が安定した後に行った。
2. 建物の位置を確認するための縄張りは、配置図に従ってロープを張り巡らせた。
3. 通り心の墨打ちができないため、通り心より1m離れたところに逃げ墨を設け、基準墨とした。
4. 建物四隅の基準墨の交点を上階に移す際、2点を下げ振りで移し、他の2点はセオドライトで求めた。

[No. 19] 既製コンクリート杭工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 中掘り根固め工法は、杭の中空部に挿入したアースオーガーで掘削しながら杭を設置した後、根固め液を注入する工法である。
2. プレボーリング拡大根固め工法のアースオーガーの引上げ速度は、孔壁の崩壊が生じないように、速くする。
3. プレボーリング拡大根固め工法の杭周固定液は、杭と周囲の地盤との摩擦力を確保するために使用する。
4. セメントミルク工法において、支持地盤への到達の確認は、アースオーガーの駆動用電動機の電流値の変化により行う。

[No. 20] 型枠支保工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 階段の斜めスラブ部分の支柱は、脚部にキャンバーを用い、斜めスラブに対して直角に建て込む。
2. 支柱にパイプサポートを使用する場合、継手は差込み継手としてはならない。
3. 柱、壁及び梁側型枠のせき板を保持する場合、支保工は一般に内端太及び外端太により構成する。
4. パイプサポートに水平つなぎを設ける場合、根がらみクランプ等を用いて緊結しなければならない。

[No. 21] コンクリートの養生に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 打込み後の養生温度が高いほど、長期材齢における強度増進性が大きくなる。
2. 湿潤養生期間は、早強ポルトランドセメントを用いた場合、普通ポルトランドセメントより短くできる。
3. 打込み後、直射日光等による急速な乾燥を防ぐための湿潤養生を行う。
4. 打込み後、少なくとも1日間はそのコンクリートの上で歩行又は作業をしないようにする。

[No. 22] 在来軸組構法における木工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 土台の継手は腰掛けあり継ぎとし、継手付近の下木をアンカーボルトで締め付けた。
2. 和小屋組の棟木や母屋には、垂木を取り付けるため、垂木当たり欠きを行った。
3. 隅通し柱の仕口は土台へ扇ほぞ差しとし、ホールダウン金物を用いてボルトで締め付けた。
4. 床束の転倒やずれを防止するため、床束の相互間に根がらみ貫を釘で打ち付けた。

[No. 23] 花崗岩の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. びしゃん仕上げとは、石材表面を多数の格子状突起をもつハンマーでたたいた仕上げをいう。
2. 小たたき仕上げとは、びしゃんでたたいた後、先端がくさび状のハンマーで平行線状に平坦な粗面を作る仕上げをいう。
3. ジェットバーナー仕上げとは、超高压水で石材表面を切削して粗面とした仕上げをいう。
4. ブラスト仕上げとは、石材表面に鋼鉄の粒子等を圧縮空気ですたきつけて粗面とした仕上げをいう。

[No. 24] とい工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 鋼板製谷どいの継手部は、シーリング材を入れ60mm重ね合わせて、リベットで留め付けた。
2. 硬質塩化ビニル製縦どいは、継いだ長さが10mを超えるため、エキスパンション継手をもう設けた。
3. 鋼板製丸縦どいの長さ方向の継手は、下の縦どいを上の縦どいの中に差し込んで継いだ。
4. 硬質塩化ビニル製軒どいは、とい受け金物に金属線を取り付けた。

[No. 25] 床コンクリートの直均し仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 床仕上げレベルを確認できるガイドレールは、床コンクリートを打ち込んだ後に4m間隔で設置した。
2. コンクリート面を指で押しても少ししか入らない程度になった時に、木ごてで中むら取りを行った。
3. 金ごて仕上げの中ずりで、ブリーディングが多かったため、金ごての代わりに木ごてを用いた。
4. 最終こて押えの後、12時間程度を経ってから、散水養生を行った。

[No. 26] 建具工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アルミニウム製建具のアルミニウムに接する小ねじは、亜鉛めっき処理した鋼製のものを使用した。
2. ステンレス製建具のステンレスに接する鋼製の重要な補強材は、錆止め塗装をした。
3. 木製フラッシュ戸の中骨は、杉のむく材を使用した。
4. 樹脂製建具は、建具の加工及び組立てからガラスの組込みまでを建具製作所で行った。

[No. 27] カーペット敷きに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. タイルカーペットは、粘着はく離形の接着剤を用いて張り付けた。
2. タイルカーペットは、フリーアクセスフロアのパネル目地とずらして割り付けた。
3. グリッパー工法に用いるグリッパーは、壁に密着させて取り付けした。
4. グリッパー工法に用いる下敷き用フェルトは、グリッパーよりやや厚いものとした。

[No. 28] 内装改修工事における既存床仕上材の除去に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

ただし、除去する資材は、アスベストを含まないものとする。

1. ビニル床シートの除去は、カッターで切断し、スクレーパーを用いて他の仕上材に損傷を与えないように行った。
2. モルタル下地の合成樹脂塗床は、電動研り器具を用いてモルタル下地とも除去した。
3. 根太張り工法の単層フローリングボードは、丸のこを用いて根太下地を損傷しないように切断し、除去した。
4. モルタル下地の磁器質床タイルの張替え部は、研りのみを用いて手作業で存置部分と縁切りをした。

※ 問題番号 [No. 29] ~ [No. 38] までの 10 問題は、全問題を解答してください。

[No. 29] 事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 敷地内の排水工事に先立ち、排水管の勾配が公設桧まで確保できるか調査を行うこととした。
- 杭工事に先立ち、騒音規制及び振動規制と、近隣への影響の調査を行うこととした。
- 山留め工事に先立ち、設計時の地盤調査が不十分であったため、試掘調査を行うこととした。
- 鉄骨工事の建方に先立ち、日影による近隣への影響の調査を行うこととした。

[No. 30] 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 騒音、塵埃、飛沫等の近隣への影響を抑制するため、仮囲いを設けることとした。
- 施工者用事務所と監理者用事務所は、機能が異なるため、それぞれ分けて設けることとした。
- ハンガー式門扉は、扉を吊る梁が車両の積荷高さを制約する場合があるため、有効高さを検討することとした。
- 酸素やアセチレン等のボンベ類の貯蔵小屋は、ガスが外部に漏れないよう、密閉構造とすることとした。

[No. 31] 工事現場における材料の保管に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 袋詰めセメントは、風通しのよい倉庫に保管した。
- 型枠用合板は、直射日光が当たらないよう、シートを掛けて保管した。
- 長尺のビニル床シートは、屋内の乾燥した場所に縦置きにして保管した。
- 鉄筋は、直接地面に接しないように角材間に渡し置き、シートを掛けて保管した。

[No. 32] 総合工程表の立案に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 上下階で輻輳する作業では、資材運搬、機器移動等の動線が錯綜しないように計画する。
- 鉄骨工事の工程計画では、建方時期に合わせた材料調達、工場製作期間を検討する。
- 工区分割を行い、後続作業を並行して始めることにより、工期短縮が可能か検討する。
- 工程計画上のマイルストーン(管理日)は、工程上の重要な区切りを避けて計画する。

[No. 33] バーチャート工程表こうていひょう かん きじゆつに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工事全体を掌握こうじ ぜんたい しょうあくすることが容易よういで、作成さくせいしやすい。
2. クリティカルパスが把握はあくしやすい。
3. 各作業かくさ ぎょうの全体工期ぜんたいこうきに与える影響度えいきやうどが把握はあくしにくい。
4. 各工事間かくこうじ かんの細かい作業工程さぎょうこうていの関連性かんれんせいが把握はあくしにくい。

[No. 34] 品質管理ひんしつかんりに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工程間検査こうていかんけんさは、作業工程さぎょうこうていの途中とちゆうで、ある工程こうていから次の工程つぎ こうていに移うつってもよいかどうかを判定はんするためにおこな行う。
2. 品質管理ひんしつかんりは、作業さぎょうそのものを適切てきせつに実施じっしするプロセス管理かんりに重点じゆうてんを置くより、試験しけんや検査けんに重点さ じゆうてんを置くほうが有効ゆうこうである。
3. 品質管理ひんしつかんりとは、施工計画書せ こうけいかくしょに基づいて工事もとのあらゆる段階こうじで問題点だんかいや改善方法もんだいてん かいぜんほうほうとう等を見出しみいだながら、合理的こうりてき、かつ、経済的けいざいてきに施工せ こうを行うことである。おこな
4. 施工せ こうの検査けんさに伴ともなう試験しけんは、試験しけんによらなければ品質ひんしつおよ及び性能せいのおを証明しょうめいできない場合ばあいにおこな行う。

[No. 35] 品質管理ひんしつかんりのための試験及び検査しけんおよ けんさに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 木工事もくこうじにおいて、造作用木材ぞうさくようもくざいの含水率がんすいりつの確認かくにんは、高周波水分計こうしゅう は すいぶんけいを用いて行った。もち おこな
2. 地業工事じぎょうこうじにおいて、支持地盤しじ じばんの耐力ちたいりよくの確認かくにんは、平板載荷試験へいばんざいか しけんによって行った。おこな
3. 鉄筋工事てっきんこうじにおいて、鉄筋てっきんのガス圧接部あつせつぶの確認かくにんは、超音波探傷試験ちょうおん ぼたんしょう しけんによって行った。おこな
4. 鉄骨工事てっこつこうじにおいて、隅肉溶接すみにくようせつのサイズかくにんの確認かくにんは、マイクロメーターちゅうおんを用いて行った。もち おこな

[No. 36] レディーミクストコンクリートの受入れ時うけい じにおいて、検査及び確認けんさ およ かくにんを行わない項目おこなはどれか。

1. 運搬時間うんぱんじかん
2. 骨材の粒度こつざい りゅうど
3. 空気量くうきりやう
4. コンクリートの温度おんど

[No. 37] 工事現場の安全管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 安全施工サイクルとは、施工の安全を図るため、毎日、毎週、毎月の基本的な実施事項を定型化し、継続的に実施する活動である。
2. 新規入場者教育とは、新しく現場に入場した者に対して、作業所の方針、安全施工サイクルの具体的な内容、作業手順等を教育することである。
3. ゼロエミッションとは、作業に伴う危険性又は有害性に対し、作業グループが正しい行動を互いに確認し合う活動である。
4. リスクアセスメントとは、労働災害の要因となる危険性又は有害性を洗い出してリスクを見積もり、優先順位を定め、リスクの低減措置を検討することである。

[No. 38] 高さが2m以上の構造の足場の組立て等に関する事業者の講ずべき措置として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

1. 組立て、解体又は変更の時期、範囲及び順序を当該作業に従事する労働者に周知させること。
2. 組立て、解体又は変更の作業を行う区域内には、関係労働者以外の労働者の立入りを禁止すること。
3. 作業の方法及び労働者の配置を決定し、作業の進行状況を監視すること。
4. 材料、器具、工具等を上げ、又は下ろすときは、つり綱、つり袋等を労働者に使用させること。

※ 問題番号 [No. 39] ~ [No. 42] までの4問題は能力問題です。全問題を解答してください。

[No. 39] 鉄筋の継手に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 鉄筋の継手には、重ね継手、圧接継手、機械式継手、溶接継手等がある。
2. 重ね継手の長さは、コンクリートの設計基準強度にかかわらず同じである。
3. フック付き重ね継手の長さには、フック部分の長さを含める。
4. 鉄筋の継手の位置は、原則として、構造部材における引張力の小さいところに設ける。

[No. 40] 鉄骨の建方に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 玉掛け用ワイヤロープでキンクしたものは、キンクを直してから使用した。
2. 仮ボルトの本数は、強風や地震等の想定される外力に対して、接合部の安全性の検討を行って決定した。
3. 油が付着している仮ボルトは、油を除去して使用した。
4. 建方時に用いた仮ボルトを、本締め用いるボルトとして使用した。

[No. 41] ウレタンゴム系塗膜防水に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 下地コンクリートの入隅を丸面、出隅を直角に仕上げた。
2. 防水層の施工は、立上り部、平場部の順に施工した。
3. 補強布の張付けは、突付け張りとした。
4. 仕上塗料は、刷毛とローラー刷毛を用いてむらなく塗布した。

[No. 42] 塗装における素地ごしらえに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 木部面に付着した油汚れは、溶剤で拭き取った。
2. 木部の節止めに、ジンクリッチプライマーを用いた。
3. 鉄鋼面の錆及び黒皮の除去は、ブラスト処理により行った。
4. 鉄鋼面の油類の除去は、錆を除去した後に行った。

※ 問題番号 [No. 43] ~ [No. 50] までの8問題のうちから、6問題を選択し、解答してください。

[No. 43] 用語の定義に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 建築物を移転することは、建築である。
2. 住宅の浴室は、居室ではない。
3. 危険物の貯蔵場の用途に供する建築物は、特殊建築物である。
4. 建築設備は、建築物に含まれない。

[No. 44] 居室の採光及び換気に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 地階に設ける居室には、必ず、採光のための窓その他の開口部を設けなければならない。
2. 幼稚園の教室には、原則として、床面積の $\frac{1}{5}$ 以上の面積の採光に有効な開口部を設けなければならない。
3. 換気設備を設けるべき調理室等に設ける給気口は、原則として、天井の高さの $\frac{1}{2}$ 以下の高さに設けなければならない。
4. 居室には、政令で定める技術的基準に従って換気設備を設けた場合、換気のための窓その他の開口部を設けなくてもよい。

[No. 45] 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 建設業の許可は、建設工事の種類ごとに、29業種に分けて与えられる。
2. 下請負人として建設業を営もうとする者が建設業の許可を受ける場合、一般建設業の許可を受ければよい。
3. 二以上の都道府県の区域内に営業所を設けて建設業を営もうとする者は、特定建設業の許可を受けなければならない。
4. 一の営業所で、建築工事業と管工事業の許可を受けることができる。

[No. 46] 建設工事における発注者との請負契約書に記載しなければならない事項として、「建設業法」上、定められていないものはどれか。

1. 工事の完成又は出来形部分に対する下請代金の支払の時期及び方法並びに引渡しの時期
2. 工事着手の時期及び工事完成の時期
3. 注文者が工事に使用する資材を提供するときは、その内容及び方法に関する定め
4. 価格等の変動若しくは変更に基づく請負代金の額又は工事内容の変更



[No. 47] 使用者が労働契約の締結に際し、「労働基準法」上、原則として、労働者に書面で交付しなければならぬ労働条件はどれか。

1. 安全及び衛生に関する事項
2. 職業訓練に関する事項
3. 休職に関する事項
4. 退職に関する事項

[No. 48] 建設業において、「労働安全衛生法」上、事業者が安全衛生教育を行わなくてもよい者はどれか。

1. 新たに選任した作業主任者
2. 新たに雇い入れた短時間（パートタイム）労働者
3. 作業内容を変更した労働者
4. 新たに職務につくこととなった職長

[No. 49] 産業廃棄物の運搬又は処分の委託契約書に記載しなければならない事項として、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」上、定められていないものはどれか。

ただし、特別管理産業廃棄物を除くものとする。

1. 運搬を委託するときは、運搬の方法
2. 運搬を委託するときは、運搬の最終目的地の所在地
3. 処分を委託するときは、種類及び数量
4. 処分を委託するときは、処分の方法

[No. 50] 次の資格者のうち、「消防法」上、定められていないものはどれか。

1. 消防設備士
2. 特定高圧ガス取扱主任者
3. 防火管理者
4. 危険物取扱者